

期首残高更新・期首残高入力について

期首残高額とは、事業年度の期首時点における各勘定科目の残高で、前年度決算額から当年度期首へ繰越される金額です。

【期首残高更新】メニュー … 対象の科目的前年度決算額を当年度(選択した年度)期首残高額へ一括で繰越登録します。

【期首残高入力】メニュー … 選択した年度において各科目的期首残高額を個別に編集できます。

前年度：H20年会計基準適用年度 ／ 当年度：R6年会計基準開始年度

✓ 組み替えた科目は、前年度決算額から当年度期首残高額へ繰り越されません。

【期首残高更新】では、前年度と当年度の両方に存在する科目、事業区分を対象に期首残高額が繰り越されます。

当年度で新たに作成した科目や事業区分、コードが変更となった科目や事業区分は、繰り越されません。

期首残高額は0円で登録されます。

固定資産(有形・無形・その他固定資産)や流動資産へ移動した特定資産の預金科目等は、コードを変更していますので、【期首残高入力】にて科目毎に期首残高額を登録してください。

※新たに作成した科目や事業区分も同様に期首残高入力にて、期首残高額を登録してください。

✓ 事業区分を組み替えた場合も必要に応じて期首残高入力にて科目毎に期首残高を登録してください。

■ 期首残高額を登録する科目について

※期首残高更新では、【科目マスター】の「残高更新制御フラグ」が「更新」設定の科目を対象として、期首残高額を登録します。

ただし、前年度および当年度の両方に同一の科目コードが存在していることが条件です。

以下の大科目以降の科目を新規作成、または前年度から科目コードを変更した場合、【期首残高更新】実行では期首残高額は登録されません。

【期首残高入力】にて、該当する集計区分で入力、登録してください。

科目種別	大科目
貸借対照表	流動資産、流動負債、固定資産、固定負債
貸借対照表	指定正味財産、一般正味財産
当期収支差額	前期繰越収支差額 ※収支計算書を出力するお客様のみ

※期首残高の確認方法は[こちら](#)

※大科目「流動資産」、「固定資産」は、中科目段階以降の科目コードを変更しているため、必ずご確認ください。

■ 令和6年会計基準運用開始年度の期首残高の登録対応

お客様の会計区分の設定や、前年度の期首残高額登録状況により異なります。

次頁以降にて該当する期首残高登録対応をご確認ください。

【3会計】 公益目的事業会計 / 収益事業等会計 / 法人会計 ⇒ P.8

【1会計】 例: 一般会計 ⇒ P.9

期首残高更新の実行、期首残高入力のご入力前に、前年度の期首残高の登録状況(集計単位)の確認が必要です。

※確認方法は[こちら](#)

- ✓ 集計単位とは、期首残高額を登録する際の「内訳の単位」です。

期首残高更新の集計単位は以下ABCの3つの選択があります。

※令和6年会計基準運用開始年度の翌年度からは、「A」「C」の2つの選択となります。

期首残高更新

令和7年度 データへ前年度データから再更新させます。

A 集計単位 事業区分	会計
B <input checked="" type="checkbox"/> 正味財産増減計算書 一般正味財産期首残高 更新	集計単位 事業区分
C <input checked="" type="checkbox"/> 収支計算書 前期繰越収支差額 更新	集計単位 事業区分

■ 各集計単位の対象大科目

A	科目種別:貸借対照表 / 大科目:流動資産、流動負債、固定資産、固定負債
B	科目種別:貸借対照表 / 大科目:指定正味財産、一般正味財産
C	科目種別:当期収支差額 / 前期繰越収支差額 ※収支計算書科目の登録がない場合、Cの選択は無効です。

■ 各集計単位の選択値

会計	現預金などの期首残高額を会計区分ごとに登録します。 例えば「一般会計」等、1つの会計区分で運用している場合は、現金残高はすべて1会計(一般会計)に登録されます。 ※会計区分で登録した場合、各決算書内訳表や事業区分ごとの残高(決算額)は確認できません。
事業区分	現預金などの期首残高額を、事業区分ごとに登録します。 事業区分に階層がある場合は最終段階の事業区分で登録します。 例えば「公益1事業」の現金残高として、期首(繰越)￥100,000を登録する形式です。

予算、伝票入力時の会計区分(運用会計区分)が【1会計】のお客様は次頁をご参照ください。

予算、伝票入力時の会計区分:【3会計】

公益目的事業会計 / 収益事業等会計 / 法人会計



- ✓ ②新科目、組み替え科目には、固定資産(有形・無形・その他固定資産)、流動資産へ移動した特定資産の預金科目が該当します。

その他にも、指定純資産へ補助金等の科目を増やした場合や、新しく追加した貸借対照表の科目がありましたら、期首残高額の登録が必要です。

- ✓ 指定純資産は、事業区分ごとにご登録ください。

前年度期首残高額が会計区分で登録されていた場合は、必ず【期首残高入力】で事業区分ごとに登録し直してください。

「貸借対照表の注記(1) 会計区分別内訳、(14)指定純資産の内訳と増減額及び残高」を正しく出力するために、
 期首残高額は事業区分毎にご登録ください。

なお、前年度分において現預金等の残高を区分経理で把握されていない場合は、内閣府「公益法人制度等に関するよくある質問(FAQ)」等で対応をご確認ください。[\[参照\] 公益法人 information](#)

- ✓ 翌年度以降の期首残高更新では、指定純資産の集計単位は「事業区分」固定となります。

また、集計単位 B「正味財産増減計算書 一般正味財産期首残高更新」の選択肢はなくなります。

予算、伝票入力時の会計区分:【1会計】

例: 一般会計



✓ **決算変換設定マスタの登録が必要です。**

各決算書の注記を出力するために、3会計(公益目的事業会計/収益事業等会計/法人会計)の変換区分の登録が必要です。

✓ **②新科目、組み替え科目には、固定資産(有形・無形・その他固定資産)、流動資産へ移動した特定資産の預金科目が該当します。**

その他にも、指定純資産へ補助金等の科目を増やした場合や、新しく追加した貸借対照表の科目がありましたら、期首残高額の登録が必要です。

✓ **指定純資産は、事業区分ごとにご登録ください。**

前年度期首残高額が会計区分で登録されていた場合は、必ず【期首残高入力】で事業区分ごとに登録し直してください。

「貸借対照表の注記(1)会計区分別内訳、(14)指定純資産の内訳と増減額及び残高」を正しく出力するために、期首残高額は事業区分毎にご登録ください。

なお、前年度分において現預金等の残高を区分経理で把握されていない場合は、内閣府「公益法人制度等に関するよくある質問(FAQ)」等で対応をご確認ください。[\[参照\] 公益法人 information](#)

✓ **翌年度以降の期首残高更新では、指定純資産の集計単位は「事業区分」固定となります。**

また、集計単位 B「正味財産増減計算書 一般正味財産期首残高更新」の選択肢はなくなります。

■ 前年度の期首残高登録の確認方法

R6年会計基準運用開始の前年度において、期首残高の集計区分を確認してください。

期首残高入力メニューにて、抽出条件(表示情報)項目を選択してください。

年度	R6年会計基準運用開始の 前年度	会計CD	複数会計の場合はいずれかの会計区分(会計CD)
----	-------------------------	------	-------------------------

科目種別、大科目は以下1~3を選択してください。

1	科目種別	貸借対照表	大科目	流動資産、流動負債、固定資産、固定負債のいずれか
2	科目種別	貸借対照表	大科目	指定正味財産、一般正味財産のいずれか

※収支計算書を出力するお客様のみ

3	科目種別	当期収支差額	大科目	前期繰越収支差額
---	------	--------	-----	----------

表示・入力をクリック後、科目名をクリックしてください。

期首残高入力

表示 情報	年度 令和7年度	会計CD 1 公益目的事業会計
科目種別	000 貸借対照表	大科目 001 流動資産

表示・入力

科目	期首残高
流動資産	9,694,046
現金預金	9,694,046
資金諸口	0
小口現金	0
普通預金	9,694,046
A銀行	9,694,046

A銀行 (手書き)

▼

期首残高入力画面

会計区分の登録(集計単位:会計)

事業区分名が表示されず、
行番の数字をクリックできません。

会計CD 1 公益目的事業会計	科目 001005020005 A銀行
期首残高額 9,694,046	登録 削除 キャンセル

事業区分ごとに入力

行番	事業区分	金額
1		9,694,046

期首残高入力画面

事業区分ごとの登録(集計単位:事業区分)

事業区分名が表示されます。
行番の数字をクリックすると、下部で編集可能となります。

会計CD 1 公益目的事業会計	科目 001005020005 A銀行
期首残高額 9,694,046	登録 削除 キャンセル

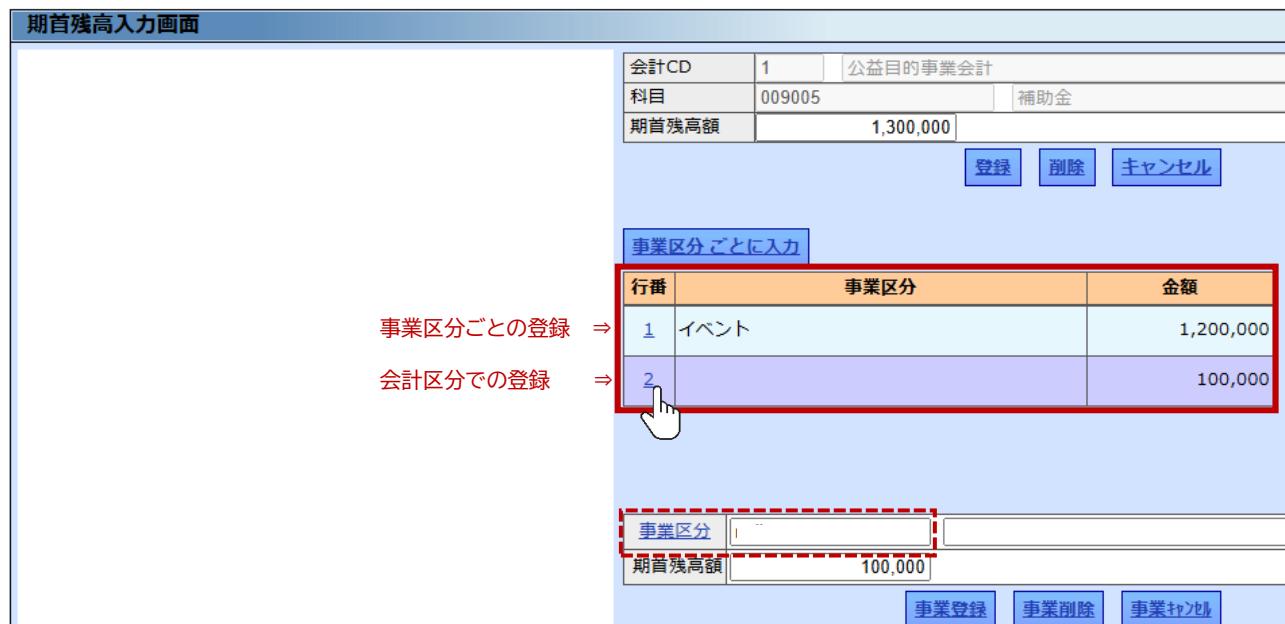
事業区分ごとに入力

行番	事業区分	金額
1	A事業	9,594,046
2	公益 3	100,000

1つの科目において、期首残高額の登録が事業区分と会計区分(事業区分が空欄)で混在している場合は、選択した年度(またはそれ以前)の期首残高更新において集計単位を誤った可能性があります。
こちらの状態では、正しい各決算書や注記を出力できません。

科目種別	大科目	
貸借対照表	流動資産、流動負債、固定資産、固定負債	合計残高試算表や総勘定元帳等を事業区分で絞込すると、正しい残高を確認できません。貸借対照表内訳表を正しく出力できません。 ※運用会計が1会計の場合は、貸借対照表の注記を正しく出力できません。
貸借対照表	指定純資産、一般純資産	貸借対照表の注記、活動計算書の注記を正しく出力できません。
当期収支差額	前期繰越収支差額	収支計算書内訳表を正しく出力できません。※収支計算書内訳表を出力するお客様のみ

期首残高入力画面



The screenshot shows the 'Initial Balance Input' screen. At the top, there are fields for 'Accounting Category' (会計区分) set to '1' (公益目的事業会計), 'Subject' (科目) '009005' (補助金), and 'Initial Balance' (期首残高) '1,300,000'. Below these are three buttons: 'Register' (登録), 'Delete' (削除), and 'Cancel' (キャンセル). The main area is titled 'Enter by Business Category' (事業区分ごとに入力). It contains a table with two rows:

行番	事業区分	金額
1	イベント	1,200,000
2		100,000

Two red arrows point from the text below to these rows. The first arrow points to row 1 with the text '事業区分ごとの登録' (Entry by business category). The second arrow points to row 2 with the text '会計区分での登録' (Entry by accounting category). A cursor is shown clicking on the second row. At the bottom, there is another table with fields for 'Business Category' (事業区分) and 'Initial Balance' (期首残高), both currently showing '100,000'. Below this are three buttons: 'Business Category Register' (事業登録), 'Business Category Delete' (事業削除), and 'Business Category Cancel' (事業キャンセル).

期首残高入力にて、事業区分の登録と会計区分の登録が混在しないように登録し直してください。

なお、いずれのお客様も指定正味財産は事業区分ごとに入力してください。

■ 期首残高更新における集計単位の誤りとは

前年度の期首残高額が【会計区分】で登録されているにもかかわらず、次年度(継越先)の期首残高更新を【集計単位:事業区分】で実行したことによって、1つの科目に対して【会計区分】と【事業区分】の期首残高が混在して登録されることです。

前年度が会計区分で登録されている場合は、期首残高更新【集計単位:事業区分】は正しく実行できません。

前年度まで【集計単位:会計】で期首残高更新を実行していた場合、期首残高は会計単位で登録されています。こちらの状態で、期首残高更新にて次の年度(継越先)へ【集計単位:事業区分】で実行すると、事業区分ごとに、正しい期首残高額を登録できません。これは、会計単位で登録されていた前年度期首残高額について、継越先年度でどの事業区分に振り分けるかの情報がないためです。期首残高更新では、原則として、例年と同じ集計単位を選択してください。※R6年会計基準運用開始の翌年度からは、指定純資産は、自動で事業区分ごとに登録されます。

■ 次回から【集計単位:事業区分】で実行したい場合は

前年度の期首残高が【会計区分】で登録されているけれど、次年度からは【事業区分】で管理したい場合は、期首残高入力にて、前年度の期首残高額を事業区分ごとに登録し直してください。登録し直した次の年度より、期首残高更新【集計単位:事業区分】で実行できます。

■ 期首残高更新

R6年会計基準運用開始年度で新しく追加した科目や事業区分、コードを変更した科目は更新できません。

期首残高入力で個別に入力してください。

実行前に、前年度(繰越元)の指定正味財産の期首残高額が、事業区分ごとに登録されているかご確認ください。

または実行後、期首残高入力メニューにて、当年度(繰越先)の指定純資産の期首残高額を編集し直すこともできます。

「貸借対照表の注記(1)会計区分別内訳、(14)指定純資産の内訳と増減額及び残高」を正しく出力するために、指定純資産の期首残高額は、事業区分ごとに登録する必要があります。※集計単位「事業区分」

- 年度は、R6年会計基準運用開始年度を選択してください。
- 各「集計単位」は、お客様ごとに異なりますので、事前にご確認ください。

※ [R6年会計基準経過措置期間中における前年度データの取扱い] が表示される場合は[こちら](#)をご確認ください。

例) 令和7年度: H20年会計基準適用年度／令和8年度: R6年会計基準運用開始年度(科目種別・科目組み替え後)

期首残高更新

令和8年度 ▼ データへ前年度データから再更新させます。

集計単位 事業区分 ▼

正味財産増減計算書 一般正味財産期首残高 更新 集計単位 事業区分 ▼
 収支計算書 前期繰越収支差額 更新 集計単位 会計 ▼

実行 **キャンセル**

※対象年度の期首残高はいったん全て削除されます。ご注意ください

※期首残高更新は実行の度に上書き登録します。集計単位の選択値を誤った場合は、やり直してください。

運用開始前に [R6年会計基準経過措置期間中における前年度データの取扱い] が表示される場合

選択した年度の前年度(繰越元の年度)に、指定区分マスタの登録があると表示される項目です。

通常は、令和6年会計基準の運用開始年度以降の期首残高更新において、移行期間終了年まで表示されます。

- 例) 令和7年度: H20年会計基準適用(R6年会計基準運用開始前)
 令和8年度: R6年会計基準運用開始(科目種別・科目組み替え後)
 令和7年度、令和8年度で指定区分マスタの登録あり

例えば、選択した年度の前年度(令和6年会計基準の運用開始前)において、

伝票入力時に「指定区分」項目の入力確認や練習等を行う関係で指定区分マスタを登録した場合、運用開始前であっても、こちらの項目が表示されます。

選択した年度の前年度が、令和6年会計基準の運用開始前のお客様は、「正味財産」を選択してください。

- 年度は、R6年会計基準運用開始年度を選択してください。
- [R6年会計基準経過措置期間中における前年度データの取扱い]
令和6年会計基準の運用開始年度前に限り、【正味財産】を選択してください。
- 各「集計単位」は、お客様ごとに異なりますので、事前にご確認ください。

期首残高更新

令和8年度 ▼ データへ前年度データから再更新させます。

R6年会計基準経過措置期間中における前年度データの取扱い 純資産 正味財産

集計単位 事業区分 ▼

正味財産増減計算書 一般正味財産期首残高 更新 集計単位 事業区分 ▼

収支計算書 前期繰越収支差額 更新 集計単位 会計 ▼

※期首残高更新は実行の度に上書き登録します。

集計単位、R6年会計基準経過措置期間中における前年度データの取扱いの選択値を誤った場合は、やり直してください。

■ 期首残高入力

前年度の決算書等で決算額をご確認の上、期首残高額をご入力ください。

令和6年会計基準運用開始年度で新しく追加した科目や事業区分、コードを変更した科目は、個別に登録してください。

また会計区分で登録されている期首残高を、事業区分で登録し直す場合は、一度会計区分の登録を削除後に、事業区分ごとに入力、登録してください。

期首残高入力メニューにて、抽出条件(表示情報)項目を選択してください。

年度	R6年会計基準運用開始年度	会計CD	会計区分(会計CD)ごとに確認してください
----	---------------	------	-----------------------

科目種別、大科目は以下1~3をそれぞれ選択してください。

1	科目種別	貸借対照表	大科目	流動資産、流動負債、固定資産、固定負債
2	科目種別	貸借対照表	大科目	指定純資産、一般純資産

*収支計算書を出力するお客様のみ

3	科目種別	当期収支差額	大科目	前期繰越収支差額
---	------	--------	-----	----------

[表示・入力](#)をクリック後、科目名をクリックしてください。

期首残高入力

表示 情報	年度 000 令和8年度	会計CD 1 公益目的事業会計
科目種別	000 貸借対照表	大科目 009 指定純資産

[表示・入力](#)

科目	期首残高
指定純資産	12,500,000
補助金	5,000,000
支付金	7,500,000



期首残高額を事業区分単位で登録し直す場合は、[削除](#)してください。

期首残高入力画面

削除します。よろしいですか？

OK	キャンセル
----	-------

D	1 公益目的事業会計
009005	補助金
期首残高額	5,000,000

[登録](#) [削除](#) [キャンセル](#)

事業区分ごとに入力

行番	事業区分	金額
1		5,000,000

再度、[科目名](#)をクリックしてください。

期首残高入力

表示 情報	年度 000 令和8年度	会計CD 1 公益目的事業会計
科目種別	000 貸借対照表	大科目 009 指定純資産

[表示・入力](#)

科目	期首残高
指定純資産	7,500,000
補助金	0
支付金	7,500,000



事業区分ごとに入力をクリックすると下部項目が編集可能となります。

事業区分を選択、期首残高額を入力後、事業登録をクリックしてください。

期首残高入力画面

会計CD	1	公益目的事業会計
科目	009005	補助金
期首残高額	0	
登録 削除 キャンセル		

事業区分ごとに入力

行番	事業区分	金額

事業区分	1020	公益 2
期首残高額	2500000	
事業登録 削除 キャンセル		



※事業区分ごとに繰り返してください。

期首残高入力画面

会計CD	1	公益目的事業会計
科目	009005	補助金
期首残高額	2,500,000	
登録 削除 キャンセル		

事業区分ごとに入力

行番	事業区分	金額
1	公益 2	2,500,000

事業区分		
期首残高額	0	
事業登録 削除 キャンセル		

登録をクリックして完了です。

期首残高入力画面

会計CD	1	公益目的事業会計
科目	009005	補助金
期首残高額	5,000,000	
登録 削除 キャンセル		

事業区分ごとに入力

行番	事業区分	金額
1	公益 2	2,500,000
2	公益 3	2,500,000

期首残高入力

表示年度	令和8年度	会計CD	1	公益目的事業会計
科目種別	000 貸借対照表	大科目	009	指定純資産
表示・入力				
科目	期首残高			
指定純資産	12,500,000			
補助金	5,000,000			
寄付金	7,500,000			

■ ご注意事項

【指定純資産】の期首残高額は、事業区分ごとに登録してください。

「貸借対照表の注記(1)会計区分別内訳、(14)指定純資産の内訳と増減額及び残高」を正しく出力するために、
指定純資産の期首残高額は、事業区分ごとに登録する必要があります。
翌年度以降の期首残高更新では、指定純資産は固定で事業区分ごとに更新されます。

■ 運用開始の翌年度からの期首残高更新について

令和6年会計基準運用開始年度の決算額確定後の操作です。

- 年度は、令和6年会計基準運用開始年度の翌年度を選択してください。
- [R6年会計基準経過措置期間中における前年度データの取扱い] 【純資産】を選択してください。
- 各「集計単位」は、こちらをご確認ください。

例) 令和8年度: R6年会計基準運用開始年度 / 令和8年度決算額を、令和9年度の期首残高へ更新(繰越)

期首残高更新

令和9年度 データへ前年度データから再更新させます。

R6年会計基準経過措置期間中における前年度データの取扱い 純資産 正味財産

A 集計単位 指定純資産の集計単位は「事業区分」固定です

C 収支計算書 前期繰越収支差額 更新

※対象年度の期首残高はいったん全て削除されます。ご注意ください

A 科目種別:貸借対照表 / 流動資産、流動負債、固定資産、固定負債、指定純資産*、一般純資産 の各科目

C 科目種別:当期収支差額 / 前期繰越収支差額 ※収支計算書科目の登録がない場合、Cの選択は無効です。

*指定純資産は集計単位の選択値は無効です。

指定純資産の集計単位は「事業区分」固定です

貸借対照表の注記(1)会計区分別内訳、(14)指定純資産の内訳と増減額及び残高を正しく出力するために、指定純資産の期首残高額は、事業区分で登録する

必要があります。そのため、指定純資産の集計単位は、「事業区分」固定となります。

※上段の集計単位「会計」を選択しても、指定純資産は事業区分で登録されます。

前年度(繰越元の年度)において、以下に当てはまる場合は、事業区分未設定(会計区分)で登録されます。

- ・前年度の期首残高額が会計単位で登録されている
- ・前年度の指定区分項目を選択した伝票において、事業区分が未入力となっている
- 事業区分未設定の期首残高額の登録では、決算書の注記を正しく出力できません。
- 期首残高入力にて、事業区分ごとに入力しなおしてください。